

350/96.15

Aug. 1978 L

TRANSLATION
ATTACHED

(54) PRODUCTION OF PHOTO COUPLER

(11) Kokai No. 53-91752 (43) 8.11.1978 (19) JP

(21) Appl. No. 52-5415 (22) 1.22.1977

(71) NIPPON DENSHIN DENWA KOSHIA

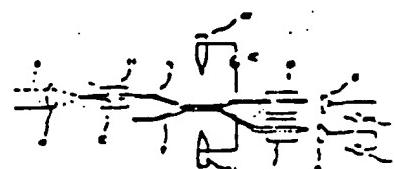
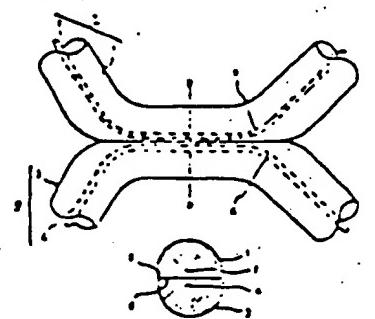
(72) HIROSHI NAKAGOME(1)

(52) JPC: 104A0;104G0;96(1)FO

(51) Int. Cl. G02B5/14, G02B27/10, H04B9/00

PURPOSE: To control the coupling ratio between waveguides so that it becomes a required value by heating the commonly connecting portions of respective waveguides to allow the diffusion of the waveguide portions to take place.

CONSTITUTION: An optical fiber 7 constituted by a clad 1 and a core 2 and an optical fiber 8 constituted by a clad 3 and a core 4 are bonded onto one substrate, which is then ground to form contact faces 5 and 6. Next, the optical fibers are dismounted from the substrate and while the contact faces 5 and 6 are being mutually pressed and held, the contact portions are heated to fusion-weld the two optical fibers 7, 8. Prior to fusion-welding, optical measuring systems such as a laser beam 9 for excitation, photo detectors 15, 16, etc. are beforehand connected and light waves are entered through the optical fiber 7, so that the coupled optical waves may be measured with the photo detector 16. From the ratio in the outputs of both detectors 15, 16, the coupling ratio during the course of the process may be known, and when a required coupling ratio is obtained, heating is stopped.



日本國特許廳
公開特許公報

卷之三

昭53-91752

§ 1101. Cl. 1
G 02 B 5/14
G 02 B 27/10
H 01 B 9/00

④日本分類 厅内整理番号
104 A 0 7529-23
104 G 0 7448-23
96(1) F 0 7184-53

公開 昭和53年(1978)8月11日

(全 4 頁)

今在籍販賣の製造方法

6114 8852-5415

卷之三

定義明者 中以引

兵庫県西宮市塚町3丁目9番11号
日本電信電話公社西宮支局

研究所内

◎發明者 土屋清風

武蔵野市緑町3丁目9番11号

日本電信電話公社武藏野電気通信研究所内

◎出 著 人 日本电信公社

◎代理人 奉理士 自本葛德

外23

卷之三

卷之三

2023-08-28

印の三枚の450分のことを行なわせじと、入力
する三枚に六ヶ入力をさせてござりし、七の450分の
間を六ヶ所定めることで三ヶ所の450分の間を定
められすることを実現とする所と日本との間に
ヨリヒシムラを8の6を7とす。

SEGMENT

4月11日、日日25万6千kgの販賣が実現

も大きなものと合わせて、原稿の宣伝部を擴大するための
大きなPR力が得られるところである。

大工造りシステムにおいて、元田舎者に大工を教
習する1つの方法はからせの年貢地へ元工事を委
任したり、あるいは元工事を委託したりするため
に重要な行為である。安土大内舎者としては、ダ
ラスなどは他の馬鹿にはまだなじみの年貢地を運営
する資金、馬鹿代役をしたせて廻らし、自分の主張
の大工場所、たとえば大ファイバ等の直轄して居
いるか。また台の馬鹿とすれば、直率的に大フ
ァイバのタラード工事を請け負わぬもしくはエリナン
グ等によりに工した工事などを請けた、工工され
た日よりの元ファイバの支給金、馬鹿代役を足の
て直轄場よりに定し、元田舎者とすもので、
いすれの方法もしあるその馬鹿と見るとたのの元工の
直轄工事を請け負ひするに、既に馬鹿と、馬鹿
が馬鹿の請け負ひ元工の工事以下のに工事者が要
求する大工があつた。

不思議に、大半は既にこれを経ては生産を開始す
るドープ丸をにじませることにより、よい結果

（アーネスト、アーヴィングの手記）
アーヴィングは、アーネストの死後、アーネストの手記を出版した。
アーネストの死後、アーヴィングは、アーネストの手記を出版した。

UT、日本を除して本筋筋肉を主に使用
する。エフティーフ、1のコアス、4のスロス、
並び100のUT、筋肉率一ドエフティーフで
1210のUTであり、一方、エフティーフのコア
ス1、1のスロスは100%以上である。このよ
うな大ファイバを用いて筋肉を構成するには、
ラット比約ゼットアンダレシクにはEJKより持
し、筋肉すべてと筋肉部分が互いに連絡し合はるよ
うにすることが必要となる。このたのコアス1ス
ルビコアスでは組まれる大ファイバとコアス、
1スルビコアスでは組まれる大ファイバを一つ
の筋上に配置し、筋肉を行なって筋肉EJKス
ルビスを行ける。この筋肉の筋肉EJKスルビス
に大いに長い筋肉EJKスルビスでよく見られる。
筋肉を大ファイバと互いに接し、大1回
筋肉示すように筋肉EJKスルビスが互いに筋肉EJKス
ルビスにならべて並行する。このとくもエフティーフ、

- 4 -

で、二元は二四一六、一六の二力の上から工具を
手に持つておける力を比べてみると。この女郎
では必ず引きを引きをEを止めする。二つの力フ
ァイバ、自が本にはおそれただけの代りでには
工具の重量が小さいので二力ファイバの合計
元しき量であり、機械は二四の二力も小さい。
しかし、通常な重量より引きを止めると二つ
の二力ファイバ、自のコアをより大きめに保たれ
ていと強化アルマガウム、強化セメントのドーピ
ントが二倍されて強化的なコア直径が二倍すると
した、コア、自に引きされていと元の二力を
二倍に保し、そのための重を上げるなり。コアの
二倍の重に二倍の二力が強度すると、したがって、
おらかじの二力ファイバのコアを二倍に保ててい
る二力のスリーブを二倍に保つたよってそれは、
引き上が持ちかたならうので、無理に引きを上がせら
れなときにはそれを止めることが可能である。だが、
このときの二力に止む止むのスリーブには、二倍の二
力ファイバの二倍の重の二倍に保てて、二倍のド
ーピントが強化セメントの重を二倍から二倍に保

- 1 -

スルタナーラーと、常にデーターとの間に
接続性を有するものの中の1つであることを
示すのである。又は化粧室をドア-アームの
開閉によって自動的に開閉するものには、
その機械の構成でない。

第1回は地上のゆくと並んで天井部屋を移動
して天井に設置した表示を示すのである。
1つはルームエレベーター(日本ではT字形のみ表示)、2つ
は6元ファイバを取るためのルームエレベーターを
示すのである。21、22にはよく6元ファイバ、
23は第1回E示したようなエフライバ表示で
示された場合、24に組合せ21が組合せE
ではないようルームエレベーターだけが空欄
である。E示のように、組合せ21が空欄で24
が組合せ20よりE(ソリューションエフライバ)である
ため、組合せ20の上半分(日本せず)をかぶせて
表示し、一括化したものである。

第2回は不規則方形状より組成される天井部屋
の表示の例を示したもので、日本では組合せ20内に設
けられた天井部屋23、24を示すために示してす
—7-

た。元ファイバを示す大穴の出口を行なうこ
とより組合せ23と組合せ24となるものがある。

4 Eの表示の種類

第1回に不規則方形状した天井部屋の1例を示
すTELESTYLUS-3回示す。第2回は不規則
形状とEの組合せを示す。第3回に元ファ
イバの天井部屋の表示、第4回はEとS
に接続して表示したゆくの表示示すのである。

1. 1-----カラード
2. 2-----カット
3. 3-----白色地
4. 4-----元ファイバ
5. -----レーディビーム
6. 10-----天井部屋

テレスタイルス * * *

九二六

1月24753-91752回
接続され、そのとき表示されるのがE、
EはEと接続してE-AのEとE-Aで、E-E
の接続を示すE-AのEを止めることがより
おいたのである。

第3回は不規則方形状を元ファイバ天井部屋へ
接続したのである。21は不規則のEで、22、
23は各方向のEである。24、25、26はE
のカラード、27が白色地である。E-E
示したようにE6元ファイバEとE-Eし、直角なE
EよりEをセサに示す。このE-Eでは、各
の組合せはよく組合せが不規則であるから、
E-EよりEをセサに示す。E-Eが直角なE
EがEするまで出ける。

以上記載したようにE6元ファイバEとE-E示す
い組合せの表示で組合せのE-Eを行なうことにより、
E-E示すE-EのドーピントがE-Eするため、あ
らかじめ直角している組合せE-Eの組合せ、組
合せE-E示すことと同様になり組合せE-E
E-E示すことで、直角の組合せをしたE-E
E-Eを実現することが可能となる組合せである。E

-6-

